

特集

ボトルワインの輸入



令和3年10月22日
東京税関

- ★港別の輸入数量シェアは、東京港が32年連続首位
- ★ボジョレー・ヌーヴォーの輸入の影響で、毎年11月頃は航空貨物の輸入が増加
- ★2020年は、チリが輸入数量6年連続首位
- ★直近の2021年1月から8月は、前年同期に比べ、チリはボトルワインが減少する一方、BIB(Bag-in-box)のような容量の大きなワインの輸入が増加



はじめに

ワインの新酒であるボジョレー・ヌーヴォーは日本では根強い人気があります。今年の解禁日は11月18日(木)です。東京税関の貿易統計の公表においては、ボジョレー・ヌーヴォーの輸入をひとつのきっかけに、平成26年以降毎年、解禁前の10月にワインの輸入動向を特集して、折々の情報をアップデートしてきました。コロナ禍における影響を含め、今年も最近の情報をお届けします。

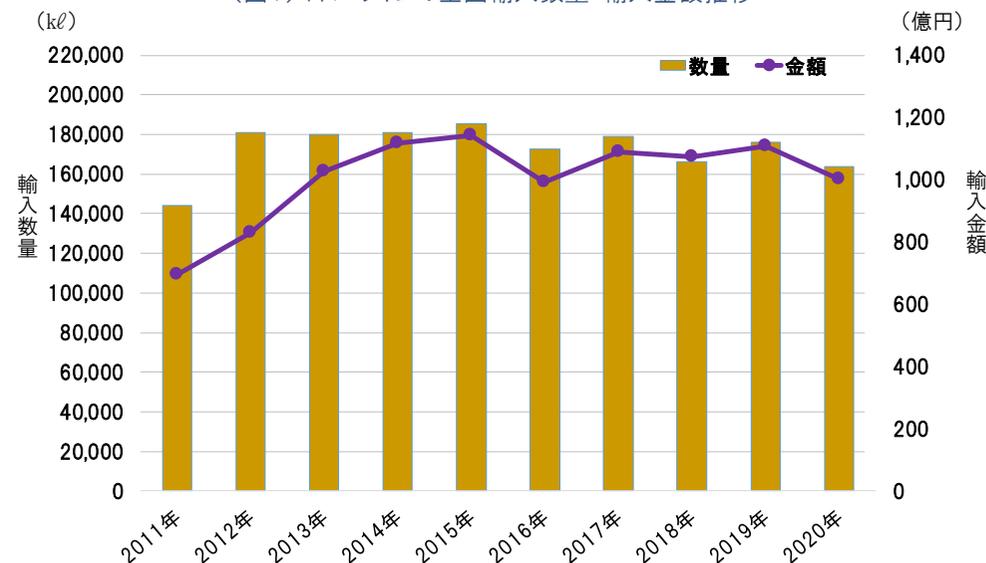
ボトルワインの輸入動向

ボトルワインの過去10年間の輸入動向をみると(図1)、数量は、2012年に前年と比べて大きく伸び、その後は17万5,000kℓ前後で増減を繰り返しつつ、おおむねなだらかに推移しています。金額は、2015年までは年々増加しましたが、2016年にやや落ち込み、その後は1,000億円台に回復しています。

2020年の輸入実績は、数量16万3,905kℓ(前年比93.0%)、金額1,003億円(前年比90.6%)となり、数量、金額ともに前年より減少しました。

本特集の「ボトルワイン」は、統計品目番号2204.21-020(ぶどう酒のうち、2リットル以下の容器入りにしたもの)」に分類されるものです。2021年8月分は速報値です。

(図1)ボトルワインの全国輸入数量・輸入金額推移



業界によると、2020年の減少は、コロナ禍における外出自粛によって、ホテルや飲食店などの業務用需要が大幅に減少したためと見られています。一方で、家飲みの広がりや家庭内需要は相当増えたと考えられ、スーパー、ドラッグストア、ディスカウントストア、オンラインストアなどでの販売が伸びましたが、輸入の減少を補うには至らなかったようです。

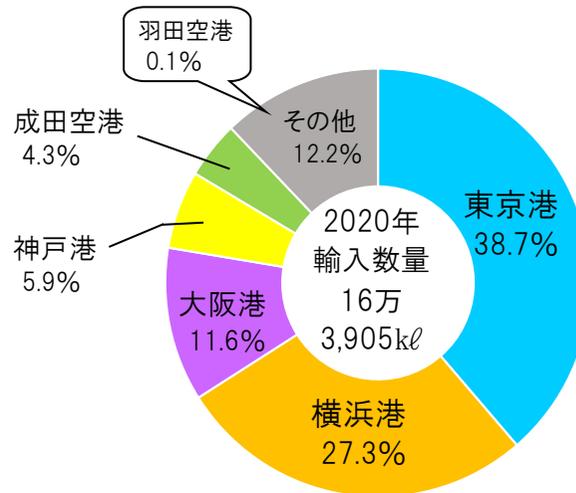
ボトルワインの港別動向

2020年のボトルワインの輸入数量の港別シェアは、東京港に続いて横浜港、大阪港、神戸港、成田空港の順となっており(図2)、東京港は32年連続で全国首位となっています。

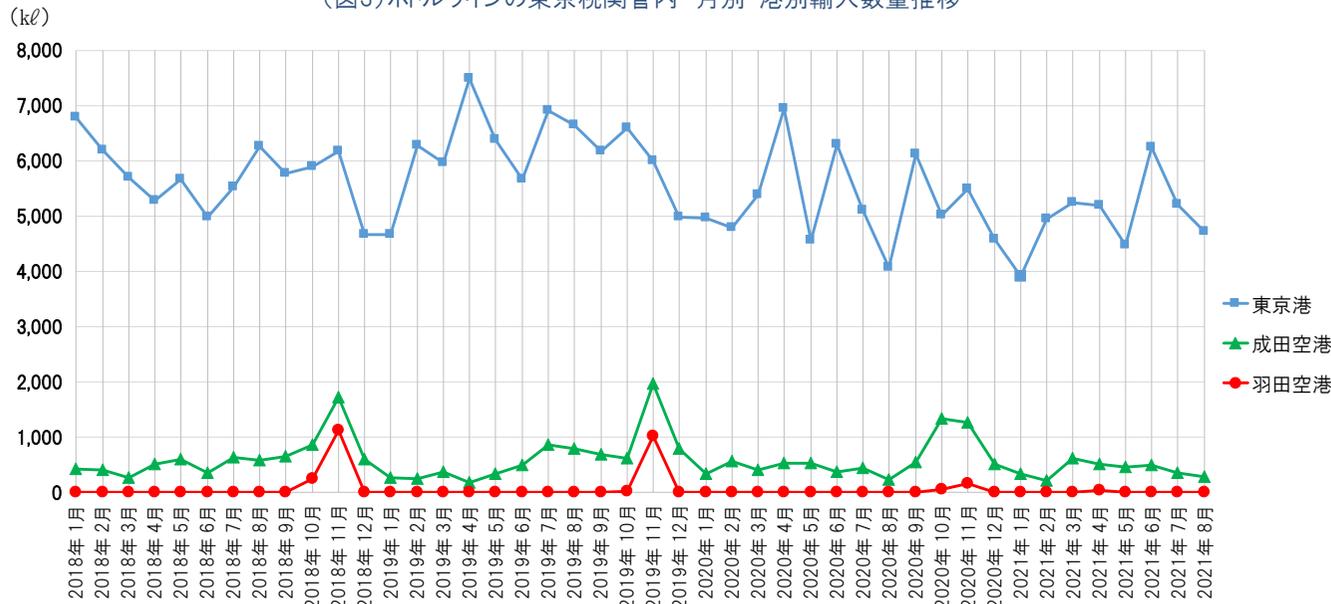
ワインの品質は輸送時の温度などの環境に影響を受けるため、リーファー・コンテナなどによる海上コンテナ輸送が多く、航空輸送はあまり利用されていません。

しかし、毎年11月頃には航空貨物による輸入が増加し、東京税関管内では成田空港と羽田空港の輸入数量が伸びています(図3)。これは、11月に解禁されるボジョレー・ヌーヴォーの影響が大きいと考えられます。

(図2) ボトルワインの2020年港別シェア



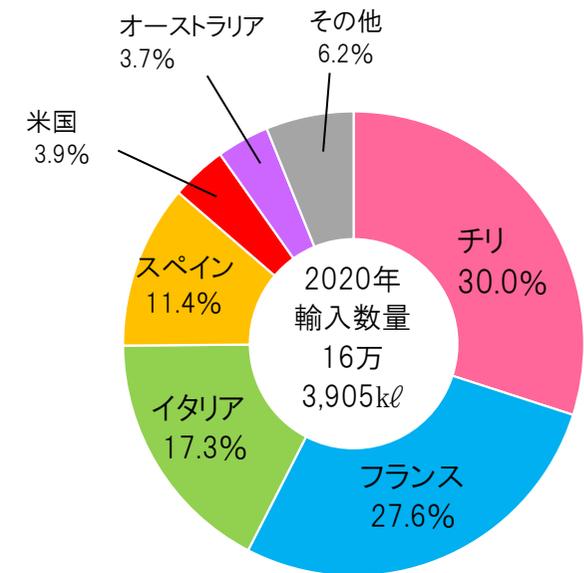
(図3) ボトルワインの東京税関管内 月別・港別輸入数量推移



国別動向

2020年のボトルワインの輸入数量の国別シェアは、首位がチリ、第2位がフランスの順となり、この2か国で全体の57.6%を占めています。(図4)

(図4) ボトルワインの2020年国別シェア



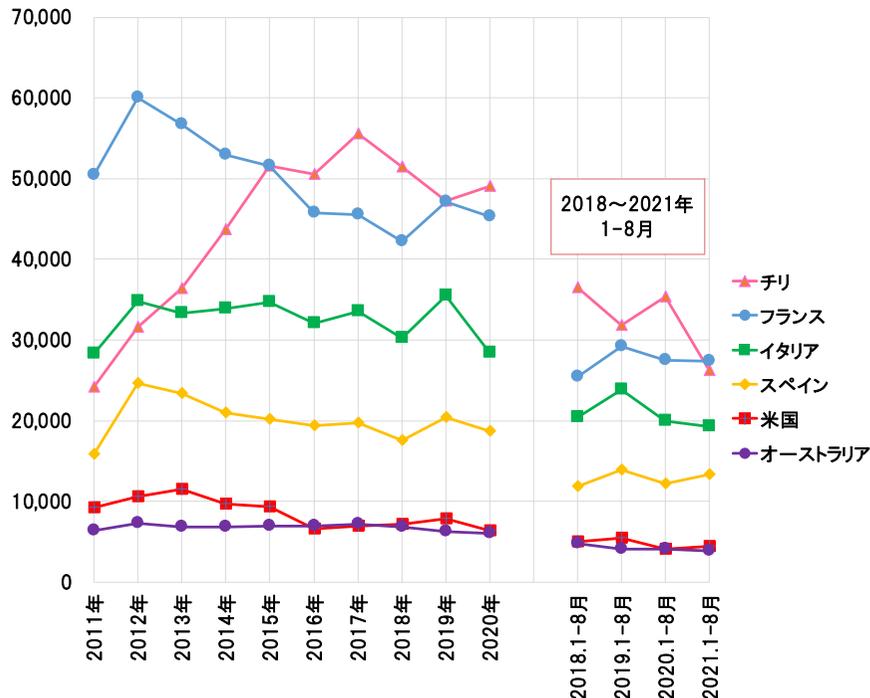
主要原産国別のボトルワインの輸入数量の推移を見てみると、長年にわたってフランスが首位でしたが、2007年9月に発効した日チリ経済連携協定で関税率が段階的に引き下げられたことや、チリ産ワインの品質が向上してきたことなどから、2015年にチリの数量がフランスを抜いてトップとなりました。(図5)

2019年には、同年2月に発効した日EU経済連携協定で関税が即時撤廃されたことなどにより、フランスからの輸入が増加し、前年から減少したチリに迫りました(チリ:4万7,213kl、フランス:4万7,118kl)。

しかし、2020年にはフランスは再び減少に転じました。業界によると、前年の2019年には、EU産ワインの輸入各社が売上増を見込んで多めの輸入計画で臨み、一部品目では関税撤廃分を活用した値下げ販売を行うなどしましたが、2020年には1年経過して需要が落ち着き、実需に見合った量を輸入するようになった結果、輸入数量が減少となったのではないかとのことです。

一方、チリからの輸入は、2020年に再び増加して前年比104.0%となり、6年連続で首位となっています。飲みやすさと手頃な価格帯が家飲みに向いていることなどが、コロナ禍におけるチリ産ワインの輸入増加の背景にあるのではないかと業界では見えています。

(図5) ボトルワインの主要原産国別輸入数量推移

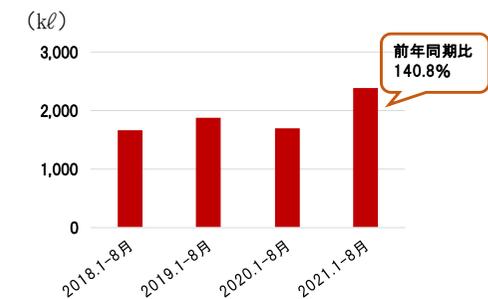


また、1月から8月までの分の動向を見てみると(図5右)、2021年は、チリが前年比74.0%と減少しています。

この今年に入ってからチリ産ボトルワインの減少の要因として、業界によると、家飲みの長期化で消費者ニーズが多様化し、コストパフォーマンスのよいチリ産ワインだけでなく、価格が高めの他のワインも飲むようになったり、バッグ・イン・ボックス(BIB)といった大容量のワインを購入するようになったりしたことなどが考えられるとのこと。

下の図6は、2リットル超10リットル以下の容器入りのチリ産ワインの輸入数量の推移をグラフにしたもので、2021年1月から8月は前年同期比140.8%となっています。

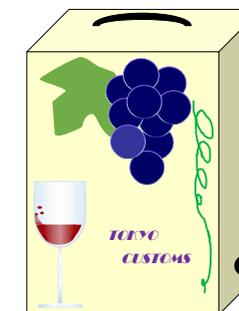
(図6) <チリ> BIBを含むワイン(2リットル超10リットル以下の容器入り)の輸入数量推移



統計品目番号2204.22-000(2リットルを超え10リットル以下の容器入りしたもの)。2204.22-000は2017年に新しく設定されました。

～バッグ・イン・ボックスのワイン～

バッグ・イン・ボックス (Bag-in-box) は、見た目が四角い小売用の箱で、外側が紙製、内側に特殊な樹脂製の袋を入れた二重構造になっています。2～4リットル程度のワインが詰められており、容器下部のコックからワインを注ぐとその分だけ袋が収縮するようになっています。コックを閉めればワインの酸化を防ぐことができるため、開栓後も半月程度保存がききます。



このようなものは、統計品目番号2204.22-000(2リットルを超え10リットル以下の容器入りしたもの)に含まれます。

注ぎ口からワインをグラスに直接注げます

ボトルワインの全国の輸入数量・輸入金額推移

(単位 数量:kℓ、金額:億円)

年	数量		金額	
	前年比	前年比	前年比	前年比
2011年	144,355	108.1%	697	103.4%
2012年	181,125	125.5%	829	118.9%
2013年	180,166	99.5%	1,027	123.9%
2014年	180,874	100.4%	1,117	108.8%
2015年	185,615	102.6%	1,142	102.3%
2016年	172,395	92.9%	993	87.0%
2017年	179,251	104.0%	1,091	109.8%
2018年	166,381	92.8%	1,075	98.5%
2019年	176,286	106.0%	1,107	103.0%
2020年	163,905	93.0%	1,003	90.6%

ボトルワインの港別輸入数量

(2020年)

(単位 kℓ)

港	数量	シェア
東京港	63,400	38.7%
横浜港	44,779	27.3%
大阪港	19,060	11.6%
神戸港	9,667	5.9%
成田空港	7,084	4.3%
その他	19,915	12.2%
合計	163,905	100.0%

東京税関管内ボトルワインの港別輸入数量推移

(単位 kℓ)

年月	東京港	成田空港	羽田空港	年月	東京港	成田空港	羽田空港	年月	東京港	成田空港	羽田空港
2018年1月	6,796	423	1	2019年4月	7,490	173	2	2020年7月	5,102	448	1
2018年2月	6,189	406	0	2019年5月	6,380	338	6	2020年8月	4,080	227	0
2018年3月	5,702	270	0	2019年6月	5,672	505	1	2020年9月	6,131	547	1
2018年4月	5,289	519	2	2019年7月	6,909	860	4	2020年10月	5,017	1,334	60
2018年5月	5,667	598	1	2019年8月	6,650	800	5	2020年11月	5,489	1,269	170
2018年6月	4,994	357	0	2019年9月	6,172	692	5	2020年12月	4,590	511	0
2018年7月	5,529	643	1	2019年10月	6,601	613	15	2021年1月	3,921	342	3
2018年8月	6,269	577	0	2019年11月	6,001	1,971	1,030	2021年2月	4,947	209	1
2018年9月	5,780	652	1	2019年12月	4,989	791	2	2021年3月	5,255	612	0
2018年10月	5,897	869	248	2020年1月	4,968	340	1	2021年4月	5,195	512	41
2018年11月	6,170	1,729	1,120	2020年2月	4,801	569	1	2021年5月	4,485	464	2
2018年12月	4,678	597	1	2020年3月	5,397	401	1	2021年6月	6,253	493	2
2019年1月	4,676	270	0	2020年4月	6,943	536	0	2021年7月	5,212	349	1
2019年2月	6,275	257	2	2020年5月	4,571	526	0	2021年8月	4,724	281	1
2019年3月	5,975	381	6	2020年6月	6,309	375	0				

ボトルワインの国別輸入数量推移 (2020年の上位6か国)

(単位 kℓ)

年月	チリ		フランス		イタリア		スペイン		米国		オーストラリア	
	前年比											
2011年	24,175	113.3%	50,455	107.0%	28,260	113.6%	15,814	115.5%	9,260	106.4%	6,405	85.8%
2012年	31,583	130.6%	60,046	119.0%	34,768	123.0%	24,656	155.9%	10,550	113.9%	7,250	113.2%
2013年	36,435	115.4%	56,689	94.4%	33,271	95.7%	23,403	94.9%	11,552	109.5%	6,840	94.4%
2014年	43,695	119.9%	52,991	93.5%	33,835	101.7%	21,005	89.8%	9,635	83.4%	6,790	99.3%
2015年	51,593	118.1%	51,521	97.2%	34,643	102.4%	20,216	96.2%	9,300	96.5%	6,945	102.3%
2016年	50,535	98.0%	45,711	88.7%	32,093	92.6%	19,403	96.0%	6,572	70.7%	6,922	99.7%
2017年	55,519	109.9%	45,523	99.6%	33,590	104.7%	19,761	101.8%	6,876	104.6%	7,144	103.2%
2018年	51,416	92.6%	42,203	92.7%	30,237	90.0%	17,521	88.7%	7,175	104.3%	6,856	96.0%
2019年	47,213	91.8%	47,118	111.6%	35,497	117.4%	20,363	116.2%	7,845	109.3%	6,257	91.3%
2020年	49,101	104.0%	45,254	96.0%	28,364	79.9%	18,679	91.7%	6,394	81.5%	6,032	96.4%
2018.1-8月	36,543	95.4%	25,466	95.8%	20,450	94.2%	11,801	88.9%	5,026	106.6%	4,787	97.9%
2019.1-8月	31,830	87.1%	29,145	114.4%	23,834	116.6%	13,909	117.9%	5,410	107.6%	4,116	86.0%
2020.1-8月	35,375	111.1%	27,523	94.4%	19,997	83.9%	12,143	87.3%	4,038	74.6%	4,067	98.8%
2021.1-8月	26,186	74.0%	27,387	99.5%	19,233	96.2%	13,271	109.3%	4,376	108.4%	3,826	94.1%

チリ産ワイン「2ℓ超10ℓ以下の容器入り」の輸入数量推移

(単位 kℓ)

年月	数量	前年比
2018.1-8月	1,671	74.0%
2019.1-8月	1,879	112.4%
2020.1-8月	1,693	90.1%
2021.1-8月	2,384	140.8%

※輸入統計品目番号:2204.22-000

参考資料:

- 山本博、「最新ワイン学入門」
河出書房新社、2016、326p、328~329p
- 小久保尊、「カラー版1時間でわかる大人のワイン入門」
宝島社、2019、152p

取材協力: 日本洋酒輸入協会

本資料を引用する場合、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

本資料に関するお問合せは以下へお願いします。

東京税関 調査部 調査統計課 TEL:03-3599-6385

貿易統計の数値はインターネットでも検索できます。

財務省貿易統計

検索



東京税関

〒135-8615 東京都江東区青海2-7-11 東京港湾合同庁舎
http://www.customs.go.jp/tokyo/